

調査概要

1. 調査の目的
- 新潟市の環境に対する市民の意識等を把握し、次期計画策定の基礎資料とする。
2. 調査の設計
- (1) 調査地域

：新潟市全域

(2) 調査対象

：新潟市住民基本台帳に登録されている満18歳以上の男女（個人）

(3) 標本数

：1,500人

(4) 抽出方法

：無作為抽出法

(5) 調査方法

：郵送方式およびWEB方式（はがきによる督促1回）

(6) 調査期間

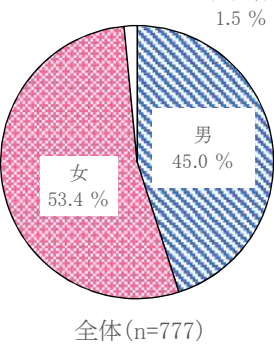
：令和4年8月1日（月）～8月19日（金）

3. 回収結果

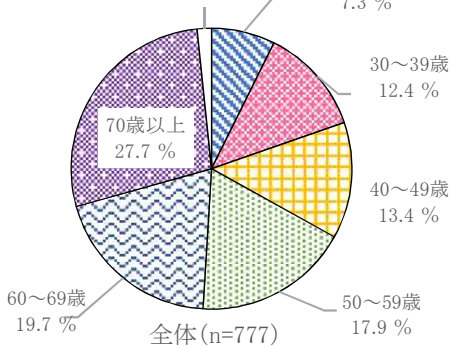
標本数 1,500人 回収件数 777人 回収率 51.8%

4. 回答者の特性

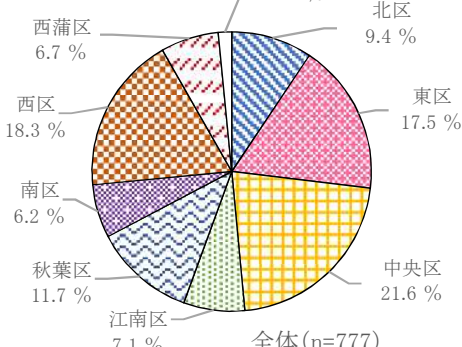
◆性別



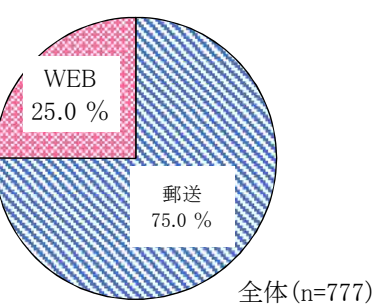
◆年齢別



◆居住区別



◆回答方法別



主な調査結果、前回調査との比較等

問3-1 環境課題への取り組み優先度

●今回【上位】			◆前回（H26.6）【上位】		
①	こどもの環境教育の推進	77.9%	①	こどもの環境教育の推進	77.2%
②	気候変動に伴う影響の回避・緩和	76.3%	②	大気汚染問題	71.5%
③	不法投棄・廃棄物処理の問題	75.7%	③	地球温暖化問題	71.4%
④	温室効果ガスの削減	73.5%	④	不法投棄・廃棄物処理の問題	68.9%
⑤	再利用・リサイクルの推進	73.1%	⑤	水質汚濁の問題	65.2%
●今回【下位】			◆前回（H26.6）【下位】		
①	騒音・振動問題	25.9%	①	騒音・振動問題	21.9%
②	身近な鳥・昆虫・魚の減少	49.5%	②	環境負荷の少ない交通の普及・推進	44.9%
③	環境学習・環境啓発の普及・推進	50.5%	③	身近な鳥・昆虫・魚の減少	45.1%
④	市民団体や企業の環境保全活動	51.6%	④	酸性雨被害の問題	51.8%
⑤	環境負荷の少ない交通の普及・推進	53.2%	⑤	地盤沈下問題	52.8%

前回調査と比較して、優先度の高い取り組みとして、今回調査新項目の「気候変動に伴う影響（自然災害、生態系の変容など）の回避・緩和」が2位となった。また、「再利用・リサイクルの推進」が5位となっている。

問3-2 環境課題への改善傾向又は対策への評価

改善した（対策を評価する）を選んだ割合が上位の項目	
⑨	資源の再利用・リサイクルの推進
⑧	ごみの不法投棄や廃棄物処理に関する問題
④	工場や河川からの悪臭に関する問題

悪化した（対策を評価しない）を選んだ割合が上位の項目	
⑬	身近にある森・林などの緑や、自然風景の減少の問題
⑮	気候変動に伴う影響（自然災害、生態系の変容など）の回避・緩和
⑫	身近に生息する鳥・昆虫・魚などの生物の減少の問題

平成27（2015）年度の状況と比べて改善したと回答した割合は、「資源の再利用・リサイクルの推進」で最も高くなった。
※結果の詳細は次ページに記載

問4 環境に対する課題に取り組むべき主体

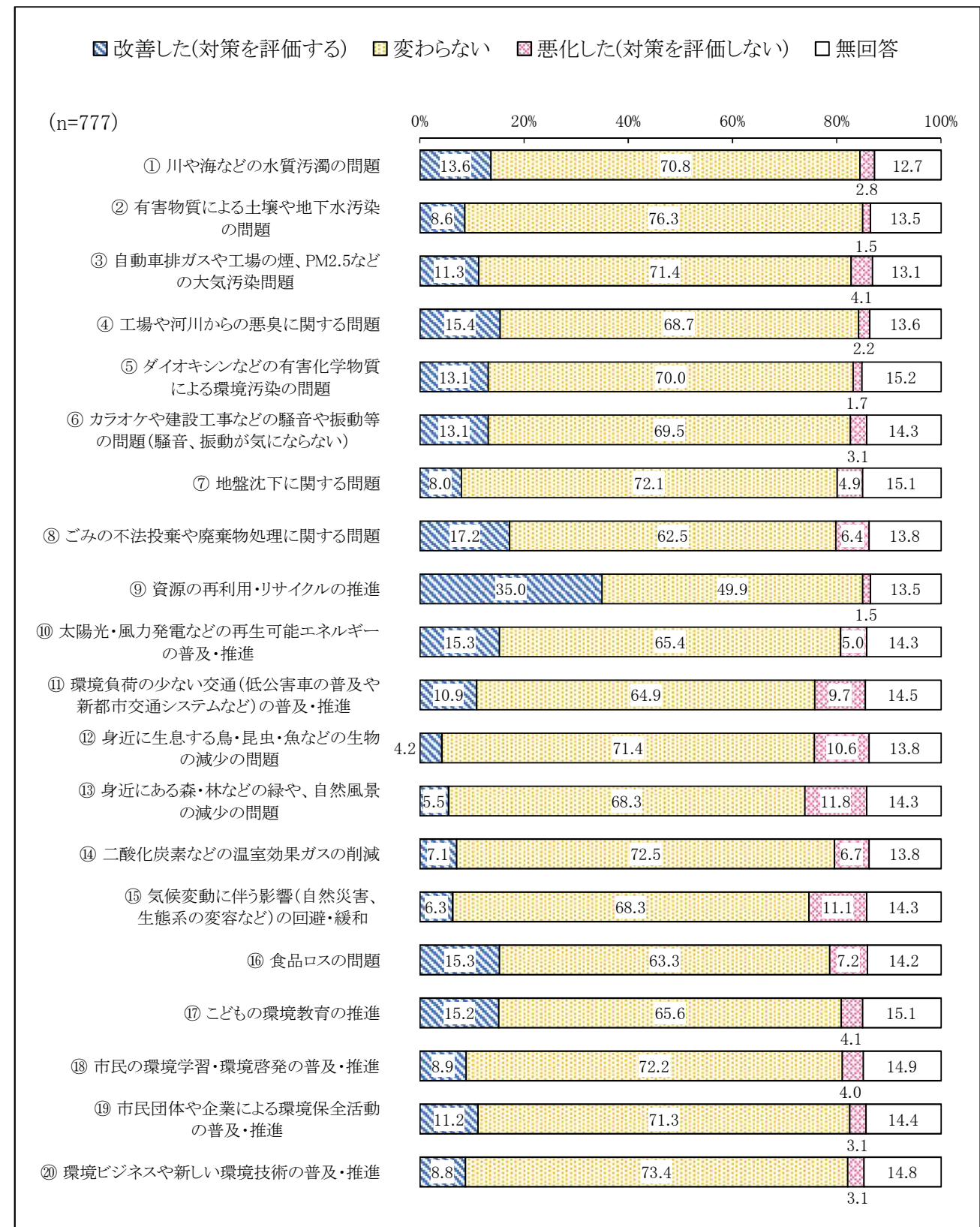
●今回【市民上位】			◆前回（H26.6）【市民上位】		
①	食品ロス	78.8%	①	地域の環境美化	74.4%
②	地域の環境美化	65.1%	②	近隣からの騒音・振動	60.0%
③	近隣からの騒音・振動	61.9%	③	リサイクル・廃棄物処理	52.2%

●今回【行政上位】			◆前回（H26.6）【行政上位】		
①	省エネ・再生可能エネルギーの推進	70.3%	①	省エネ・再生可能エネルギーの推進	76.3%
②	地域の環境美化	61.0%	②	自然環境の減少・破壊の防止	68.0%
③	地球温暖化	60.6%	③	地球温暖化	64.8%

●今回【企業上位】			◆前回（H26.6）【企業上位】		
①	化学物質による汚染	80.3%	①	化学物質による汚染	78.8%
②	大気汚染	71.9%	②	大気汚染	73.2%
③	水質汚染	64.4%	③	水質汚染	68.0%

「食品ロス」について、市民の努力が最も必要とする人の割合が約8割にのぼった。また、「地域の環境美化」について、行政の努力が最も必要とする人の割合が増加している。

問3-2 環境課題への改善傾向又は対策への評価 ※結果の詳細



問5 市民の環境を良くする行動の取り組み状況

●今回【上位】			◆前回【上位】		
①	ごみの分別は正しく行っている	97.8%	①	ごみの分別は正しく行っている	96.9%
②	台所からの排水に気を付けている	97.4%	②	台所からの排水に気を付けている	96.6%
③	山や川から動植物を持ち帰らない	96.4%	③	山や川から動植物を持ち帰らない	95.9%
④	野外レジャーのごみは持ち帰る	94.5%	④	野外レジャーのごみは持ち帰る	94.4%
⑤	買い物袋（マイバッグ）を持参する	94.0%	⑤	資源回収に協力している	94.0%
●今回【下位】			◆前回【下位】		
①	公共交通機関の積極的利用	30.0%	①	公共交通機関の積極的利用	38.2%
②	地域の環境保全活動への参加	43.5%	②	地域の環境保全活動への参加	46.2%
③	エコマーク商品等の購入	49.9%	③	エコマーク商品等の購入	55.6%
④	住まい周辺の自発的な清掃	54.8%	④	住まい周辺の自発的な清掃	56.9%
⑤	近距離外出は自転車や徒歩	60.1%	⑤	近距離外出は自転車や徒歩	68.5%

前回調査と比較して、上位5位では、「資源回収に協力している」を抜いて「買い物袋（マイバッグ）を持参する」が5位となり、取り組みが大きく増加している。また、上位項目はいずれも前回から取り組む人の割合が増加している。下位5位の変化はなかった。

問8 後世に残したい環境

ワードクラウド図により、文章中で出現頻度が高い単語を複数選び出し、その頻度に応じた大きさで図示した。回答に出現する回数が多かったワードは「自然」「田園風景」「やすらぎ堤」「水辺」「公園」「萬代橋」「鳥屋野湯」等となっている。

◆ワードクラウド図

